

シルバーたより もとみや



3号

□発行日／平成22年7月1日

□発行所／社団法人本宮市シルバー人材センター

□住 所／本宮市本宮字太郎丸112-3

□電 話／0243-34-5226

岳山のぶどう園収穫作業

事業活性化計画策定する

当センターの今後の事業拡充推進と会員の就業充実を図るため、中期計画書を策定いたしました。

計画目的に沿って事業を推進してまいります。

一 計画の目的

本宮市の高齢化率は、平成二十一年度の二二・三%から五年後の平成二十六年度は、二三・四%と上昇が予測されます。

また、全国的には、平成二十七年度には、国民の四人に一人が六十五歳以上という、超高齢化社会が到来すると予測されます。

高齢化率の上昇は、寝たきり等心身に支障を来す高齢者が増加する要因となります。

しかし、多くの高齢者は、元気で自立した生活を送っています。この元気な高齢者のため、社会参加事業としてシルバー人材センターが一翼を担うことが大切です。

このような状況から、中期目標の事業活性化計画を策定いたしました。

二 計画期間

この計画の対象期間は、次のとおりとする

(一) 活性化計画の期間

平成二十一（二〇〇九）年度から平成二十二（二〇一〇）年度までの二年間とする。

(二) 次期活性化計画の期間

平成二十三（二〇一一）年度から平成二十六（二〇一四）年度までの四年間とする。

(三) 活性化計画の目標

- ①会員加入の粗入会率二・〇%に上げる
- ②契約金額の向上
- ③配分金一人当たりの増額

計画の目標

事業活性化計画期間 平成21年度～平成22年度

年度	項目	H19	H20	H21		H22
		実績	実績	目標	実績	達成率
1 会員数（人）	A	143	157	168	170	101.19%
2 60歳以上の人口	B	8,893	8,974		9,020	9,149
3 粗入会率（%）	C=A/B	1.61%	1.75%	1.86%	1.88%	101.19%
4 受注件数（件）	D	385	432	450	526	116.89%
5 就業実人員（人）	E	128	133	160	158	99.00%
6 就業延人員（日人）	F	13,343	14,022	14,700	14,436	98.20%
7 就業率（%）	G	89.51%	84.71%	95.00	92.94%	0.98%
8 契約金額（千円）	H	70,054	75,697	74,500	72,422	97.21%
9 配分金（千円）	I	64,259	68,742	68,250	66,613	97.60%
10 1人当たりの就業実日数 J=F/E		104.2	105.4	100.0	91.4	91.37%
11 1人当たりの配分金額（千円） K=I/D		502	517	428	422	98.59%
9月末現在契約金		37,680	45,186		41,576	
前年比			119.92%		92.01%	

会員の状況

平成22年4月1日現在の会員数

年齢	男性	女性	計	構成比(%)
60～64歳	37	11	48	27.43
65～69歳	47	17	64	36.57
70～74歳	26	8	34	19.43
75～79歳	19	4	23	13.14
80歳以上	6	0	6	3.43
計	135	40	175	100.00

平均年齢 68.3歳（男性68.7歳・女性67.3歳）

高年齢者 86歳

三 重点課題

*組織運営体制の強化

・各委員会の充実

・会員増強の推進

・会員二〇〇人とし粗入会率二・〇%。

*安全就業の実施

・安全意識の周知

・安全パトロールの実施

*普及啓発活動の推進

・シルバーだよりの発行

・ホームページの更新

*就業機会の開拓

・未受託の事業所を直接訪問

*就業率の向上

・就業の適正配分と配置

*配分金の向上

・未受託の事業所を開拓

組織の強化と会員がシルバー人材センターを自ら運営する意識改革を図る。

(一) 新規事業の開拓

・会員の就業アンケート実施

(二) 効果的な事業展開

・会員が自主的、自立の意識改革

(三) 社会参加活動の充実

・ボランティア活動

(四) 安全就業の徹底

・安全就業講習会の実施

(五) 広報・周知の強化

・リーフレットの配布

(六) 独自事業の取組み

・実施の方向で種別検討中

(七) 会員の技術・健康向上の取組み

・各種講習会の実施

四 事業向上の目標

組織の強化と会員がシルバー人材センターを自ら運営する意識改革を図る。

(一) 新規事業の開拓

・会員の就業アンケート実施

(二) 効果的な事業展開

・会員が自主的、自立の意識改革

(三) 社会参加活動の充実

・ボランティア活動

(四) 安全就業の徹底

・安全就業講習会の実施

(五) 広報・周知の強化

・リーフレットの配布

(六) 独自事業の取組み

・実施の方向で種別検討中

(七) 会員の技術・健康向上の取組み

・各種講習会の実施

平成二十一年度 事業報告書

I 事業報告

二十二年度の目標に対する実績は、会員は、二名の増、受注件数は、七十六件の増、就業率は、二・一%の減、就業延人員数は、二六四人日の減、契約金額は、二、〇九八千円の減となりました。

II 事業項目別の成果

一 組織運営体制の強化

世話人・班長を中心に、会員相互の交流並びに情報等を交換、事業への参加意識の高揚を図り、役員研修及び各種委員会研修を実施し、会運営で大変参考となり成果を上げることができました。

二 就業機会の開拓、会員増強の推進

企業訪問等を行い、就業機会の開拓に努めました。

三 安全就業の推進

会員の傷害事故を未然に防止するため、安全就業の徹底を図るとともに、安全パトロールを実施し、作業現場の安全点検や機械器具の整理点検を行いました。さらには安全講習会等を開催し、安全就業意識の啓発、就

業途上での交通事故防止を行いました。

事業に参入するため、準備事業を進めてまいりました。

平成二十一年度 事業計画書

I 事業活動方針

今後の重点事業の一つとして、公益社団法人への移行があります、平成二十一年十二月に公益法人制度改革が施行され、すべての法人が「特別民法法人」扱いとなり、平成二十五年十一月までに、「公益社団法人」に移行すべく準備を進めております。

会員・役員及び事務局職員の事業及び研修等を行い、さらにセンター互助会が一泊研修、日帰り研修で親睦を図りました。

六 公益法人制度改革に伴う新制度への移行

公益法人設立のため、第三回通常総会において、会員総意の承認を得て、二十二年秋には新制度による法人移行を目指します。

公益社団法人は、不特定かつ多数の方への利益の増進に寄与する公益目的事業を明確にして、新たな運営体制の見直しと経営自己責任をさらに示すこと等の大きな事業変革を求められています。

このようながら、会員の主体性や積極性を重点とし、自主・自立を基本理念に会員相互の交流・健康と生きがいつくりを図りながら、活力ある地域社会づくりに貢献できるよう、事業の推進と拡充に努めます。

一般労働者派遣事業への参入事業) 施への体制づくり(国庫補助)

五 企画提案方式による事業実施への体制づくり

「教育、子育て、介護、環境」の事業実施について市との協議を進めてまいりましたが、具体的には至りませんでした。今後とも企画研修委員会において引き続き検討いたします。

九 企画提案方式による事業実施への体制づくり

福島県シルバー人材センターの検討联合会の一般労働者派遣事業の

事業実績

		会員数	受注件数	就業率	就業延人員	契約高
21年度	目標	168	450	95.0%	14,700	74,520千円
	実績	170	526	92.9%	14,436	72,422千円
	比較	2	76	△2.1%	△264	△2,098千円
20年度	目標	155	420	95.0%	14,000	70,700千円
	実績	157	432	84.7%	14,022	75,697千円
	比較	2	12	△10.3%	22	4,997千円
実績比較増減		13	94	8.2%	414	△3,275千円

		会員数	受注件数	就業率	就業延人員	契約高
21年度	目標	168	450	95.0%	14,700	74,520千円
	実績	170	526	92.9%	14,436	72,422千円
	比較	2	76	△2.1%	△264	△2,098千円
20年度	目標	155	420	95.0%	14,000	70,700千円
	実績	157	432	84.7%	14,022	75,697千円
	比較	2	12	△10.3%	22	4,997千円
実績比較増減		13	94	8.2%	414	△3,275千円

七 独自事業の取組み

公益法人制度改革に伴つ新制度への移行

九 無料職業紹介事業への体制づくり

十 福利厚生事業

項目	年度	平成21年度(目標)	平成22年度(目標)	平成23年度(目標)
1 会員数		168人	175人	180人
2 粗入会率		1.86%	1.94%	1.94%
3 受注件数		450件	480件	500件
4 就業実人数		160人	168人	173人
5 就業延人数		14,700人	15,000人	15,200人
6 就業率		95.0%	96.0%	96.0%
7 契約金額		74,500千円	74,700千円	74,800千円

安全を意識してこそ良い仕事

安全標語が決まりました。

安全適正就業標語募集を、十一月二十二日 第十回理事会において決定し、シルバーだより2号で会員の皆さんに応募周知いたしました。

三月末締切りに、標語三十件、十二名の方の応募をいただきました。部会・委員会から十名の委員を選出し、四月十四日、標語審査会を開催いたしました。

厳正な審査の結果、次の方の作品が選ばれ、第四回通常総会において、表彰されました。

今後、会員皆さん的安全適正就業のための標語として使用してゆきます。

安全を意識してこそ良い仕事

優秀賞

作業前 まずは確認 危険個所

三瓶 一一（本宮第三班）

宇山 幸夫（本宮第一班）

過信せず
自信をもつて 安全作業

參加賞 八名

遠国松菅
藤分田野
正昇
志明勝次
塩石渡國
田橋辺分
初伸代
男吉津
弥惣治

安全就業祈願祭

会員の皆さまに、常田
頃の安全就業をお願いし

スプレー、虫刺されの薬（抗ヒスタミン剤含むステロイド軟膏）などを準備し、こつでも使用出来るようにしておきます。

四、蜂に刺されてしまつた

* 毒液は、水に溶けやすいため、刺されたら、

四、蜂に刺されてしまつた
　　* 毒液は、水に溶けやす
　　いため、刺されたら、

* 巣に近づかない
作業中に巣を見つけた
う絶対に近づかないで
ください。ゆっくりと
離れて、自分で対処し
ないでください。

う。棒で叩いたり、大きな声を出すと興奮して、攻撃してきますので注意してください。

一、服装に気をつけて
＊蜂は、黒い色を好

向こうのつが。黒糸の

「にあらま、黒糸の
服は、標的になとりや
すいので、白い服を着
用し、頭には、白い帽

子をかぶり黒髪を隠しましよう。

* 蜂は、においに敏感です。

香水・化粧品は、蜂を興奮させますので注意してください。

五、蜂の被害は、傷害保険

対象になります

事務局業務係にすみやかに事故報告をしてください。



一、準備

スズメ蜂
もっとも
危険な動物



みんなの広場

先輩・同輩の姿に学ぶ

久間木俊二



融和と至好

國分治臺



定年後、誘われて各種団体やサークル等に入りました。

入る団体が、員の数が増え、出席で云々なくなつて止めたものもありますが、現在も続けているものに「青少年赤十字賛助奉仕団」の活動や「本宮市シルバー人材センター」等の活動があります。

前者は、奉仕的な活動で、現職の先生方が行う「青少年赤十字指導者講習会」や研究指定校の研修発表会への参加とその手伝い、日赤県支部でのボランティア活動です。

後者のシルバー人材センター活動は、ボランティアと言うより自分の為の活動です。

専門馬鹿で視野が狭い私には、これだけの活動が時々負担になることがあります。

しかし、活動を通して多くの先輩や同輩の方々が実に生き生きと樂しみながら仕事をされている姿に出会い、多くのことを学ばせていただきました。

私も仕事や奉仕活動にはぜひ樂しみながら取り組みたいものだと思っています。

当センターは、平成二十年十一月十九日に法人認可を受け発足し、二年目を迎えています。

会員は、百五十七名から現在は、百八十名に、受注件数は、四百三十二件から五百二十六件と九十四件の増加になりましたが、社会経済の低迷に伴い、契約金額は、前年対比二百万円の減となり、仕事は、増えたのに契約金が下がるおかしな現象となっています。

シルバーの仲間は、みんな元気なので、
働けど、働けど一生懸命に働けど…収

しかし、シルバーの原点は、健康で働く意欲のある高年齢者を対象としています、就業を通して生きがいや経験、技術を社会へ還元し、誇りを持って、それを喜びとするのが目的です。

仲間と楽しく、チームワーク良く、きれいに仕上がった現場を見て、みんなでっこりほほ笑み仕上げの一服が名別。そして、暑い季節の働いた後の明日への活力のための晩酌は、また格別な至好のものじゃないですか。

新会員加入者名

22年1月から6月

一月二十一日、安全・適正就業管理教育事業として、「樹木・剪定管理講習会」を白沢老人福祉センターで開催いたしました。講師に、みどり花塾 塾長阿部美敏先生をお招きし、午前中は、剪定の基礎知識、剪定の時期、間引き剪定方法等講義を受け、午後は、敷地内の松・梅の剪定実技を行いました。

会員表彰

(表彰規程第二条第一号に基づく)

樹木・剪定管理

講習会



高加渡遠小三西齋渡竹早佐遠高川三高齋国國小
梨藤辺藤林瓶山藤辺内川藤藤橋名瓶橋藤分分松
次信正伊恒秀芳和勝ト道政文佳勝善陽金新秋
潤夫太郎道吉徳樹子彦博子義二雄子敏春彦七司子
本宮第3班本宮第3班本宮第5班本宮第5班本宮第5班白沢第1班本宮第2班本宮第4班白沢第1班本宮第1班白沢第1班本宮第1班白沢第1班本宮第2班本宮第4班白沢第2班

川国遠横安杉
名分藤木斎原
トニ子 稔 今朝子 吉男イ彌
本宮第1班 本宮第2班 本宮第3班 本宮第4班 本宮第2班

会員互助会だより

平成21年度 収支決算

1. 収入の部

項目	予算額	決算額	差異	摘要
1 会費	157,000	181,000	△24,000	181名分
2 助成金	200,000	200,000	0	センター助成金
3 雑収入	1,000	27,075	△26,075	預金利子・旅行残金
4 前年度繰越金	268,000	268,710	△710	
合計	626,000	676,785	△50,785	

2. 支出の部

項目	予算額	決算額	差異	摘要
1 事業費	300,000	313,848	△13,848	日帰り・1泊旅行 講習会お茶・弁当代
2 事務費	50,000	41,478	8,522	文房具類
3 報償費	35,000	77,205	△42,205	感謝状・表彰記念品代
4 慶弔費	20,000	23,000	△3,000	3名分
5 積立金	150,000	150,000	0	
6 予備費	71,000	0	71,000	
合計	626,000	605,531	20,469	

事業報告

当会員互助会の趣旨に基づき、会員相互の親睦交流と就業における安全意識の高揚に努め、安心して就業できる環境づくりを継続して推進する。

1. 事業

(1)会員親睦交流会等の実施

- 感謝の集い(日光・鬼怒川方面) 10月29日 21名参加
- 一泊親睦旅行(南三陸方面) 11月9日・10日 17名参加

(2)奉仕活動の実施

- 市内清掃作業(みずいろ公園・白沢公民館)
10月4日 93名参加
- 剪定ボランティア(白沢老人福祉センター)
3月4日 27名参加

2. 慶弔関係 3件

収入合計	676,785円	資金管理状況
支出合計	605,531円	次期繰越金 71,254円
次期繰越金	71,254円	積立金 150,000円
		通帳残高 221,254円

平成22年度 事業計画

本年度も当会員互助会の趣旨に基づき、会員相互の親睦交流と就業における安全意識の高揚に努め、安心して就業できる環境づくりを継続的に推進する。

1. 事業

(1)会員親睦交流会等の実施

(2)奉仕活動の実施

(3)普及啓発活動の実施

(4)安全就業の推進

2. 慶弔事業

会員互助会会則による。

収支予算

(単価: 円)

項目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
1 会費	340,000	157,000	183,000	170名
2 助成金	0	200,000	△200,000	
3 雑収入	1,000	1,000	0	預金利子
4 前期繰越金	71,254	268,000	△196,746	
合計	412,254	626,000	△213,746	

(単価: 円)

項目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
1 事業費	300,000	300,000	0	親睦交流事業等
2 事務費	50,000	50,000	0	文房具類
3 報償費	40,000	35,000	5,000	表彰記念品代
4 慶弔費	20,000	20,000	0	お見舞等
5 積立金	0	150,000	△150,000	
6 予備費	2,254	71,000	△68,746	
合計	412,254	626,000	△213,746	

(注)予算の補正是幹事会に一任し、科目間の流用は会長に一任する。



三月四日、白沢老人福祉センターオンにて、樹木・剪定管理講習会で学んだ、会員二十七名がボランティアで剪定を実施いたしました。講習会の技術を忘れないように研修することを目的に行いました。松の木や梅の木が剪定によりきれいになり、会員の技術の向上が図られました。

樹木・剪定ボランティア

7月は安全適正就業月間です

平成二十二年度 「安全・適正就業強化月間」の実施計画

一、目的

事業規模の拡大に伴い、センター会員の就業中及び就業途上の傷害、災害事故は増加の傾向にあり、特に死亡事故の発生が後を絶たないところです。日頃から安全・適正就業に対する意識の高揚を維持していくことが大切です。

このため、当センターは、安全・適正就業についてより着実な成果を期するため「安全・適正就業強化月間」を設定し実施します。

二、期間

七月一日から七月三十一日までの一ヶ月間

三、スローガン

「安全を 意識してこそ 良い仕事」

四、実施事項

(一) 安全・適正就業対策実施計画の策定

(二) 安全・適正就業対策の機械器具・安全防護具等の点検の実施

(三) 福島県連合スローガン

「安全は一人一人の心がけ」

五、安全・適正就業対策基本計画

平成二十二年度 安全・適正就業対策実施計画

安全・適正就業対策基本計画

一、安全・適正就業管理体制

- (一) 安全・適正就業委員会の設置
- (二) 安全就業推進員の配置

二、事故防止対策

- (一) 安全・適正就業対策の企画立案・実施
- (二) 安全・適正就業委員会の開催
- (三) 安全就業推進員調整会議の開催
- (四) 事故状況の把握とその分析及び統計
- (五) シルバー保険制度の充実



三、会員の健康管理

- (一) 健康に関する講座の開催
- (二) 文化活動の促進
- (三) 新入会員に対する研修会等の開催
- (四) 就業途上の交通安全講習会の開催
- (五) 研修会・講習会等開催の教材の作成

四、安全・適正就業管理教育

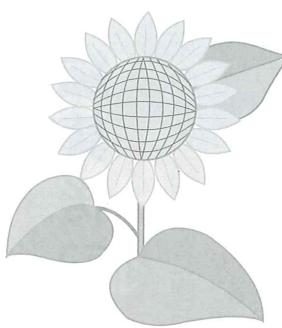
- (一) 安全・適正就業に係る講習会開催
- (二) 作業機械の取扱い講習会の開催
- (三) 就業途上の交通安全講習会の開催
- (四) 研修会・講習会等開催の教材の作成
- (五) 安全向上に対する提案、標語募集等の実施

五、安全・適正就業意識の普及啓発

- (一) 普及啓発資料の作成
- (二) 安全の日及び週間等の設定
- (三) 安全向上に対する提案、標語募集等の実施
- (四) 年度事業計画での安全目標の設定
- (五) 適正就業のための業務の確認

- (五) 安全・適正就業推進大会への参画
- (六) 安全・適正就業対策のための講習会等の開催
- (七) 七月の一日及び十五日を「安全意識高揚の日」に設定し、安全就業への意識の高揚を図る

- (一) 普及啓発資料の作成
- (二) 安全の日の設定
- (三) 安全目標の設定
- (四) 適正就業の確認



会員の責務

第一 会員は、センターの運営に必要な経費の一部に充てるため、定款の定めるところにより「会費を納入」すること。

第二 会員は、センターの構成員として積極的にセンターの運営に参画し、センターの健全な運営と発展が図られるよう「相互に協力」し合うこと。

第三 会員は、センターの理念や目的に賛同して入会するものであることから、この事業における就業について積極的な意思を持つべきであり、センターから提供された仕事については、「共働・共助の精神」を持って誠実に履行すること。

以上の責務を会員それぞれが充分自覚して、事業運営を適切に進めていくことが、センターの健全な発展のためには最も大切なことです。

物忘れと認知症

年齢とともに誰もか物忘れをしやすくなります。そして「認知症が始まったのでは?」と心配になりますが、単なる物忘れは認知症ではありません。見分け方は、次の3点です。

- ①細部をわざわざしたのか、出来事を忘れたのか
- ②指摘されたら、思い出せるかどうか
- ③忘れた自覚があるかどうか

*例えばこんな受け答えから判断しては
問 何で伝言を伝えてくれなかつたの?

太郎さんの答え	花子さんの答え
あっ、そうだ。 伝言があったのに忘れてゴメン	私は伝言なんて聞いてませんよ。 何で、そんなことを私に聞くの?

(これは単なる物忘れ)

伝言をいい忘れないましたが、指摘されたとたんにすぐ思い出して、謝るのは認知症ではありません

(認知症かも)

出来ごと全体が思い出されない、指摘されても思い出せない、認知症の可能性が充分にあります。

認知症は防げるの?

認知症とは

認知症とは病名ではなく、大脳の細胞が壊れて情報を分析したり、記憶したり、思い出したりする認知能力が低下したために、生活が困難になった状態を表します。

認知症の予防

大脳の細胞が壊れてしまう原因は、年齢とともに生じやすくなる脳内のいくつかの病気が原因となります。

原因がわかれれば、予防法が見えてきます。予防は、認知症のことをよく知ることです。

そうすれば、認知症の発病を遅らせることができます。

健康講座 自分の健康は、自分で守る

日常生活動作(ADL) チックリスト

最近1カ月で、こんな状態にこころあたりがありませんか

チックしてみませんか

状態	項目	無い	ときどき有る	よく有る
基本動作	歩くのが大変になった			
	長く座っていられない			
	寝返りがきつい			
	車の乗り降りが困難になった			
手段的日常生活動作(IADL)	薬の内服がきちんとできなくなった			
	金銭の管理ができなくなりた			
	物忘れがひどくなつた			
	置き忘れやしまい忘れが多くなつた			
複雑な動作	座って居て、立ち上がりがきづくなつた			
	片足で立っていられない			
	交通機関を利用できなくなつた			
	旅行がめんどうになった			
日常生活動作(ADL)	衣服の着脱が大変になつた			
	髪を洗えなくなった			
	顔が洗えなくなった			
	爪切りができなくなった			

ときどき有るに10個、よく有るに5個の□チックがある場合、寝たきり予備軍が疑われます

このチックリストは、家族や周囲の人にもしていただく事が大切です

二月八日、安全・適正就業管理教育事業として、健康講座「会員の健康管理と介護予防」を開催いたしました。会員の安全就業のために、認知症予防・老年症候群とは・寝たきりにならないための講座を白沢老人福祉センターで開催し、四十四名が参加いたしました。

講師には、南東北病院理学療法士の室井宏育さんを迎えたばかりで、講演と実践の指導をいただきました。



委 委 委 委 員 員 員 員
委員長 副委員長 員長 菊地
川佐藤 榎戸 遠藤 次雄
安雄 啓子 正志 次雄
力

* 広報委員会 * * * * *

皆さんからの投稿をよろしくお願いします。

この「だより」は、働く喜びと、生きがいを見つけ、仲間の心のつながりの場となる事を願っています。

日頃の生活の中のホットな情報をお待ちしながら歩んでいます。

雪がある異常気象で、実際に二ツボンの米作りも今年はどうなるか心配されました。しかし、自然とは、よくしたもので、今頃になると水面を渡る風も心地よく、蛙の鳴き声も騒がしく、実りの秋に期待が持てるようになってきました。

シルバー人材センターの仕事も、これから「草刈り」「植木の手入れ」が本番の忙しさを迎える時期です。

編集後記